

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>本校の教育テーマ「国際教育」「環境教育」「表現活動」を相互に関連づけて推進し、グローバルな視野を身に付け、主体的に生きる力を育み、世界に発信できる人材を育成する</p>	<p>(1)北稜ならではの国際教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>英語科の授業だけでなく、他教科の授業、ホームルーム活動、部活動、生徒会・委員会活動等多方面で、本校普通科の中心的な柱として、国際教育を展開することができた。今後も全校体制での国際教育の充実を目指していきたい。</li> <li>国際交流の機会を取り込んだ英語科の授業が展開できた。また、「話すこと」に焦点を当てた指導法の研究を進めることができた。</li> <li>オーストラリア研修旅行に向けた事前学習、事前交流を着実に進めることができた。今後は、研修旅行本番に向けた準備を入念に進めていきたい。</li> <li>訪日高校との関係を深めることで、今後も永続的に交流できる学校数を増やすことができた。今後は、交流の中で生徒が段階的に成長できるようなプログラム構成に進化させていきたい。</li> <li>「北稜高校3つの留学」をスタートさせ、海外に果敢に挑戦する生徒を支援する体制が整った。今後も、多様な興味・関心に対応できるように拡充していきたい。</li> <li>教育の柱同士の連関については課題が残る。今年度の国際教育の成果を土台に、今後、有機的な連関ができるように進めていきたい。</li> </ul> <p>(2)まなびの森、北稜</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新学習指導要領対応、観点別評価、学びのICT化等の教育課題に対しては、教務部、ICT推進チームを中心に全校的な取組や整備を進めることができた。今後は、特に授業力の向上を軸に据えた取組に発展させていきたい。</li> <li>探究チームを中心に「北稜探究」のプログラム再編を進めることができた。今後は、この成果を生かしつつ、探究の質の向上に向けた生徒への働きかけを工夫していきたい。</li> <li>初年次サポートについては模索が続いている。本校生の実態に合わせてプログラム化していくことが課題である。</li> <li>「まなびのForestWeek」の取組の中で、読書文化の土台作りができた。今後は探究活動の大切な手段としての書物の活用に関心を込めたい。</li> <li>環境教育については、安定した取組が展開できた。今後は、全生徒の環境問題への意識向上と、国際教育との連関が課題となる。</li> <li>地域課題解決については、生徒会を中心に組織的に動くことができた。今後は、取組の活性化が課題である。</li> <li>北稜ならではの進路指導として、「チーム」「解法」「習慣」をコンセプトとした「7組受験チーム」がスタートできた。今後は、コンセプトの具現化と活動の活性化を目指したい。</li> <li>学校行事は、北稜祭、体育祭を中心に本校生の力が発揮できた。今後は、より一層の生徒の主体性伸長を目指していきたい。</li> </ul> <p>(3)多様性の森、北稜</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が主体性を発揮し、挑戦する場として、部活動、生徒会活動、委員会活動、7組受験チーム等それぞれが取組を充実させることができた。今後も、この流れを大切にしつつ、取組の充実を図っていく。</li> <li>発達支持的生徒指導、特別支援の観点をもった教育活動の見直しについては、校内研修等の設定により前進させることができた。今後は、校内組織の見直しを通して、より具体的に展開させていきたい。</li> <li>生徒会が中心となり、地域のプラットフォームを目指した取組を進めることができた。今後も、生徒が地域とつながる手段の1つとして展開していきたい。</li> <li>安定した人権教育を組織的に展開できた。今後は、特に人権学習プログラムを再編することで、多様性に重きを置いた人権教育を実現していく。</li> </ul>	<p>(1)「北稜ならではの国際教育」</p> <p><b>「京都岩倉に国際の北稜あり」と認知される学校へ。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「岩倉から世界に果敢に挑戦する力」を育てる、普通科全員を対象とした国際教育を全教科・分掌で展開</li> <li>生徒の学ぶ意欲の喚起ならびに学びの手法獲得に重きをおく、「使える英語」が身につく英語科教科指導の確立</li> <li>普通科全員で取り組むオーストラリア研修旅行を軸とした国際教育の充実</li> <li>「生きた国際交流」に向けた、海外姉妹校・交流校との交流充実と英語科評価内への取り込み</li> <li>北稜ならではの留学支援の充実</li> <li>本校の教育の柱「環境教育」や「表現活動」と連関した国際教育の展開</li> </ul> <p>(2)「まなびの森、北稜」</p> <p><b>「学びの喜び」を体験し、「自立した学習者」へと育つ学校へ。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新学習指導要領対応、観点別評価、学びのICT化等の教育課題に対して、「授業力向上」を中心においた組織的な取組の推進</li> <li>総合的な探究の時間「北稜探究」の拡充を通じた、すべての学びの土台となる「探究する力」の育成</li> <li>本校入学生生の状況の分析と指導法の研究を通じた学び方や学習習慣を生徒が体験的かつ腹落ちしながら獲得できる「初年次サポート」のプログラム開発</li> <li>生徒・教職員みなで「読みかけの本を持つ」学校文化の構築</li> <li>世界を巻き込んで環境問題を「解決しようとする力」の育成</li> <li>地域をフィールドとして獲得した課題解決力をグローバルな問題解決につなげる、「地域の課題解決力、京都No.1校」を目指した教育活動の具体的展開</li> <li>「チーム」「解法」「習慣」をキーワードとした「7組受験チーム」の活動活性化</li> <li>生徒が主体性を発揮する挑戦の場としての学校行事、特に「北稜祭」の拡充</li> </ul> <p>(3)「多様性の森、北稜」</p> <p><b>多様性の中で主体的に、自立して生きる、「品格ある北稜生」が育つ学校へ。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>部活動、生徒会活動、委員会活動、7組受験チームの活動等、生徒が主体性を発揮し、挑戦する場としての学校機能の充実</li> <li>「生徒指導提要」改訂の趣旨にのっとりた発達支持的生徒指導の組織的展開</li> <li>「特別支援の観点」で全教育活動を見直すことによる生徒の多様性への対応</li> <li>北稜が岩倉地域のプラットフォームとなり、生徒の世界が広がることを目指した、地域連携の充実</li> <li>多様性に重きを置いた人権学習の再編。</li> </ul>

令和6年度 府立北稜高等学校 学校経営計画(スクールのマネジメントプラン) (計画段階)

評価領域 (分掌領域)	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
			項目	総合	
教務部	主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、各教科の授業力向上を牽引する。	生徒・教員共にICT機器の整備を進めることで、協同的に学ぶ環境を整えるとともに、ICT機器の活用を促進する。			
		秋の研究授業週間を軸に授業改革を進めると共に、観点別評価の方法を振り返り、授業と評価の一体化を目指す。			
教育推進部	北稜高校の魅力伸長(北稜2.0st)を継続し、その魅力の発信を、SNSをより活用し、強化する。	国際、環境、表現+課題解決の3+1の柱の魅力を伸長させるとともに、生徒からの声を学校SNSに活用するなど学校広報を活性化させる。			
		生徒自身の主体性を活かした環境保護活動を行うとともに、各分掌からの意見も取り入れながら新たな環境教育を構築する。			
国際教育	国際交流のさらなる充実を図り、北稜ならではの国際教育をより進めていく。	昨年度行った国際交流の形を活用しながら、様々な国の生徒と交流を行う中で、生徒中心に課題点を見つけ、よりよい交流が行えるようにする。			
		生徒が各国に留学できるプログラムのさらなる充実とホームステイ文化の構築を行う。また、それらのプログラムに参加した生徒が、校内での国際交流のリーダーとして活躍できるような環境を整える。			
生徒支援部	発達支持的生徒指導の組織的展開	部局活動・生徒会活動・委員会活動・北稜祭を通して、生徒が主体的に挑戦できる環境を充実させるとともに、積極的な対話を通して、内面からの発達を支援する。			
	特別支援教育の充実	生徒の多様性を尊重し、生徒一人ひとりに応じた学び方を支援する。			
地域課題解決力育成	「地域の課題解決力、京都No.1校」に向けた取組の実践	地域課題と生徒の活動が円滑に結びつき、課題解決に向けた取組のイニシアティブが執れる生徒会と生徒の団体を育成する。			
		地域連携の成果を地域や世界に発信するアウトプットの場と、合意形成を図る機会を拡充させ、生徒が自らの力で活用できる支援をする。			
進路指導部	「自律的・主体的な学び」を目指した進路指導の体系を構築する。	北稜7組受験チームで学習習慣定着や本質的な解法の理解にこだわった補習を実践し、チームで協働的に学習に取り組むことができる環境を整え、学習リーダーの育成をはかる。			
		各学年で取り組む進路HRや模試の申し込み、進路希望調査などの進路情報をスタディサプリ等を利用して生徒、保護者に積極的に発信する。			
図書部	「読書センター」機能及び「学習・情報センター」機能という2つの柱をもとに「生徒起点」の魅力ある図書館づくりに取り組む	定期的な図書紹介や企画展示・教科発表展示を通じて来館者増に努める。端末を利用した教科との連携も意識して取り組む。			
		図書委員会発信の校内企画の成功のサポートを行う。			

評価領域 (分掌領域)	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
			項目	総合	
事務部	生徒が学習や部活動等に主体性を発揮しながら挑戦出来るような学校機能の充実に貢献する。	施設の老朽化改修等により生徒が過ごしやすい場を作るとともに光熱費の削減を図り、教育活動のさらなる充実に向けて他の分掌や教科との連携を密にしながら効果的な予算執行を行う。			
第1学年部	主体的・自律的に行動し、「自分を大切にできる生徒」を育成する。	生徒の自主性を尊重し、自ら考え行動できるよう指導をしていく。「自分を大切にするとともに、「他者も大切にできる」ように、多様性を尊重する精神も育成する。			
第2学年部	国際交流の機会に対して主体的に取り組み、表現力・コミュニケーション力・国際感覚を養う。	本校にて歓迎する国際交流では、国際交流委員の生徒を中心に様々な企画・運営を行い、日々培った英語で「おもてなし」を行う。そして、オーストラリア研修旅行を通じて、多様な文化や習慣を肌で感じ、生きた英語に触れ、自己表現ができる生徒を育成する。			
第3学年部	学校行事に主体的に取り組み、試行錯誤することで思考力・判断力・表現力を伸ばし、国際感覚を養う。その経験や力をいかして希望進路実現をさせる。	遠足・北稜祭・国際交流事業に向けて実行委員会を開催し、生徒の意見も積極的に取り入れる。失敗も経験しながら、挑戦し成長していける雰囲気づくりも心がける。			
		春・夏の面談をプレゼン形式に変更し、自発的な進路研究を促す。進路指導部とも密に連携し、適切な時期に適切な進路情報を生徒だけでなく保護者にも提供する。			

令和6年度 府立北稜高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン) (計画段階)

評価領域 (分掌領域)	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
			項目	総合	
国語科	多様な生徒が主体的に学ぶための授業力の向上に取り組みながら、「表現活動」を中心に「探究する力」を育成する。	生徒の多様性に対応するために、ICT特にiPadの利活用を目指していく。授業内だけでなく、家庭学習においても活用できるようなアプリのみならずさまざまな機能についても習熟し、生徒の利用および指導に役立てる。 また、他教科と協働し、「北稜探究」での探究活動を通して環境問題の意識づけや表現力の育成を図る。			
地歴公民科	地域を起点としてグローバルな視野を養う学びを、科目の特性を活かして展開する。	グローバルな地理的・歴史的認識の下、同時代の世界、周辺諸国の動向や関わりに注目しながら授業を展開し、地域社会との関わりのなかで、主権者意識を育み、SDGsの目標達成をめざす教育指導を実践する。			
数学科	生徒の主体性や協働的に学ぶ姿勢の伸長を目指し、授業力の向上を図る。	・教員からの一方向の授業でなく、生徒たちが自ら思考し協働し合いながら学ぶ機会を設ける。 ・授業の内容や根拠を生徒が納得して理解できるよう、伝え方を工夫し、自ら学習に取り組む基盤を作る。 ・思考過程において、疑問点や主張の根拠を明確にし、体系的に思考する力の向上を図る。			
	入試に対応できる資質能力を育む。	・「7組受験チーム」に参加している生徒を中心として、チーム・解法・習慣をキーワードに、互いに切磋琢磨できる環境を設定し、入試に向き合う姿勢を育む。 ・授業内においても、より思考力の必要な問題に取り組み、思考のプロセスを学ぶ機会を作ることで、思考力の向上を図る。			
理科	自然現象への興味・関心を持たせ、科学的思考力を育む。環境教育も推進する。	身近な自然現象や環境問題に関わる題材を各科目の視点で取り入れる。演示実験や模型、視聴覚教材を活用し、学習内容への興味・関心を持たせる。実習においても、ICT機器も活用しながら協働的な学びを取り入れる。			
	日常の学習習慣を確立させ、学力の定着を図る。	日々の授業の重要性を強調する。明確で細かな指示を心がけ、生徒がスムーズに学習に取り組めるようにする。学習習慣の確立のため、課題プリントや小テストを適宜取り入れる。また、定期考査を活用し、生徒が自身の学習課題を見だし、改善できるよう手立てを講じる。			
保健体育科	対話的に深く学び、ICTを活用し主体的に広く学ぶ力を育てる。	・運動機会と研究のバランスを考え、ロイロノートを用いた「課題発見」から、より「課題克服」につなげられるよう考え方、調べ方の思考力の向上を図る。			
		・調べ学習とディスカッションをセットとして考え、生徒自身のアウトプットからより深く学ぶ力の向上を図る			

評価領域 (分掌領域)	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
			項目	総合	
芸術科	芸術の幅広い活動を通して、各科目における見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を育成することを目指す。	生徒のレポートやアンケートを用いて、目標の設定と振り返りをさせることにより、芸術における諸能力が高まったかどうかを評価させる。			
		主体的・対話的で深い学びの実現に向け、ICTやアクティブラーニングを活用した授業を展開する。			
英語科	新学習指導要領に基づいた指導と評価の構築を推進する。 「国際教育」の中心的な教科として、生徒の学習意欲と運用能力の向上を目指す。	指導方法や評価方法について、各教員の実践を適宜共有し、新学習指導要領に基づく指導と評価の実践を推し進める。			
		生徒全員を対象とした国際交流を充実させることで、学習意欲の向上を図るとともに、授業での指導との関連付けを行うことで、運用能力の向上と、生徒の適切な評価を実現させる。			
家庭科	自立と共生について主体的に考え、行動できる力を養う。	実験、実習、課題学習などをする中で生じた疑問や課題について探究し、ふり返りシート(レポート)にまとめる。			
		ICTを更に有効に活用し、日常生活と社会の課題を結びつける。			
情報科	単にICT機器の操作技術の習得に終わるのではなく、実生活において情報技術を正しく効果的に利用できることを目標とする。	まずは基本的なPC利用・キーボード利用の修得を目指す。情報技術の進歩を実習を通じて体験しながら、情報モラルや情報セキュリティを意識した利用方法が身につくよう指導する。			
総合的な探究の時間	生徒起点の「問い」から始まる探究学習を重視し、すべての学びの土台となる「主体性」や「協働性」、「創造性」を養う。また、自身の探究の広がりや社会との繋がりを意識することで実際に社会に参画しようとする態度を育成する。	①生徒自らが「やりたい」「学びたい」と主体的に取り組めるように、生徒の疑問や興味を引き出すワークや対話を行う。 ②探究のサイクルである「課題の設定」→「情報の収集」→「整理・分析」→「まとめ・表現」→…を行うなかで、自身の興味・関心(Will)と必要性・課題(Need)を結びつけ、学びが実社会に生きる感覚を経験させる。 ③上記の学びを重ねた生徒が、実践発表会を通じてお互いに刺激し合う中で、教師を超えた多様で創造的なアイデアやプロジェクトが出てくることを目指す。			